

高松市立檀紙小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、自ら考え実行し、たくましく生きる児童の育成

【本校の課題】

- 男女とも、握力の値が低く、県・全国平均を下回っている学年が他の種目に比べて多い。
- 運動能力や体験の2極化が進んでおり、学年が上がるにつれてこの傾向が強い。

【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる児童が多く見られるが、高学年の児童の中には委員会の活動等があり、運動場で十分な時間遊ぶことができない児童もいる。また、家庭においても室内でゲームを行う児童が多く、外で遊びを通して運動する機会が十分に確保できず、運動経験の乏しさにつながっている。体育の授業においては、新型コロナウイルス感染防止対策のため、かなり制限を受けるので、効率のよい活動内容を考える必要がある。

【取組み】

持久力を高める(状況に応じて再考)

11月から1月の週2回放課後「RUN・ランクラブ」という、持久力を高める活動を4・5・6年生対象に行っている。(主に1kmのタイム測定) 教員も共に走ることで、児童の意欲向上にもつながっている。

体育実技研の実施

長期休業中、体育実技研修会を行う予定である。研究教科が体育以外や若年の教員を対象に単元の流れや動きなど、実技を交えて研修する。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策に応じた学習活動を考えている。

多様な運動の機会の設定

臨時休校中に各学年の発達段階に合わせた種目(ブリッジ・背支持倒立・一輪車等)のプリントを配布し、体力づくりとして運動に取り組んでいる。

運動会の表現運動の中で発表する予定だが、状況によっては、来年度に発表の場を延期する。



握力の強化の日常化

本校の課題である「握力」の向上を図るために、児童玄関横に握力計を置き、日常的に握力を計測できるようにしている。

そのため記録が向上し、伸びが見られた。体育の授業の帰りなどに握力コーナーに立ち寄り、楽しみながら握力を計測している。



【目標】

- 運動が好きと答える女子児童の割合を、令和3年度までに85%にする。
- 現職教育で体育実技研修会を毎年行い、指導力の向上を図る。
- 運動場で元気に遊ぶ時間を保障することで、集団の中で自分を発揮するたくましい児童を育成する。